

梅田地区モデル事業 ICTを活用した医療と介護の情報共有

メディカルケアステーション（MCS）を活用した情報共有の検証実施

※MCS：携帯端末やタブレット端末による完全非公開型医療介護専用 SNS

ビジョン との関係	心身状態	自立期						要支援・軽度期						中重度・終末期					
	18の柱	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

①事業概要

- モデル事業検討会の医療・介護に携わるメンバーで構成するMCS導入検討会を立ち上げ、アプリ事業者によるデモンストレーションと操作説明、活用例の検討を実施
- 区の非常勤職員（在宅療養支援コーディネーター）が検証で使用する事例を作成
- 実際にMCSを使用したICTの活用による医療介護情報連携の検証を実施

【実施実績】実施事例数：2事例 専門職数：10名



②担い手の役割

専門機関	検証実施
包括・区	全体調整、事例作成、進捗管理

③効果

- MCSの使用方法を理解することができた
- 医療介護の情報連携においてMCSが有効であることを実感できた

④課題と今後の方向性

- 利用者によって、活用方法や共有する情報の範囲に差がある
 - セキュリティを確保するため、利用者や使用端末などの管理が必要となる
- 運用や管理のルールを検討していく

⑤課題を踏まえた梅田地区の今後の展開

- MCS導入検討会で課題の洗い出しを実施

⑥課題を踏まえた他地区での展開

- モデル事業で把握した課題などを基に、医師会や介護事業者などの関係団体との検討を継続していく
- 多職種連携研修などでMCSについて取り上げるなど、その有用性・利便性を発信していく